

令和6年度
女性農林漁業者による経営改善等の
取組事例集



令和7年3月

山口県農林水産部農林水産政策課

はじめに

県では、平成30年度に創設した「農林漁業女子ステキ・スタイル応援事業」により、女性農林漁業者の経営力向上や働きやすい職場環境づくりを推進しています。また、各農林水産事務所及び下関農林事務所においては、管内の女性農林漁業者を対象に、地域女子会の開催やモデル経営体の育成など、女性農林漁業者の課題解決や経営発展に向けた取り組みを支援し、“女性が働きたくなる農林漁業”の実現を目指しています。

そこで、本事業を活用し、女性農林漁業者が主体となって取り組んだ経営改善や地域女子会での活動成果等を「女性農林漁業者による経営改善等の取組事例集」として取りまとめ、女性農林漁業者や経営者をはじめ、多くの方に広く発信することとしています。

今年度の事例集では、経営の見直しやデジタルツールを活用した働き方改革、整理収納による職場環境の改善、マルシェ開催等による販売力強化などについて紹介しています。

経営改善等のアイデアやポイントが詰め込まれた本事例集が、女性やみんながいきいきと働き活躍する農林水産業の職場環境づくりに向けた取り組みの参考となれば幸いです。



令和6年度作成パンフレット



令和6年度女性が働きやすい農林漁業経営体づくりセミナー



令和6年度ステキ女子ミーティング

目 次

【岩国農林水産事務所管内】

- ムリ・ムラ・ムダのない持続可能な明るい農業に向かって . . . P 1
(マスキ農園 舛井絵里子)
- 出店者も楽しめるマルシェへ (岩国地域農業女子会) . . . P 3

【柳井農林水産事務所管内】

- 先進農家の取組をヒントに環境改善に取り組み始めました . . . P 5
(大内バラ園)
- 「やまぐち農林漁業ステキ女子応援団」とのコラボ活動を拡大
しています！ (柳井・大島地域農業女子会) . . . P 6

【周南農林水産事務所管内】

- 小さな改善の積み重ねで、働きやすい作業場になった！ . . . P 7
(かいたファーム 海田春水)
- 夫婦で取り組む働きやすい職場づくり . . . P 9
(きときと果樹園 田中和歌子)

【山口農林水産事務所管内】

- 情報の「可視化」、整理収納の習慣化により働きやすい職場環境に . . . P 11
(株式会社あぐりてらす阿知須 長尾智美)
- 動画マニュアル作成や「やまぐち“とも×いく”応援企業」への
登録による働きやすい雇用環境整備 . . . P 13
(株式会社藤村農園 大木蛸、石田聡来)

【美祢農林水産事務所管内】

- Instagramで直販の情報発信 (とよたファーム 豊田康恵) . . . P 15
- 宇部・美祢地域ステキ女子マルシェを開催 . . . P 17
(宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ実行委員会)

【下関農林事務所管内】

- 「長州企業フェスタ」での活動PR！ (下関地域農林漁業女子会) . . . P 19

【長門農林水産事務所管内】

- 農事組合法人における6次産業化推進 . . . P 20
(農事組合法人おのじ営農組合女性部)

【萩農林水産事務所管内】

- 「魅せるビジネスフォト」で、情報発信を！ . . . P 21
(阿武萩地域ステキ女子会)
- ついに実現！「オリジナル豚汁」提供 in ステキ女子マルシェ . . . P 23
(阿武萩地域ステキ女子会)

ムリ・ムラ・ムダのない持続可能な明るい農業に向かって

- 屋号・法人名等 マス牛農園
- 氏名 舩井絵里子
- 所在地 岩国市
- 生産品目 露地野菜(オクラ、枝豆、スイートコーン等)
- 就農年 令和3年(2021年)



○取り組みのきっかけ

私は、家庭菜園にはまっていた夫を手伝う形で農業に携わるようになり、今は個人事業主として農業を経営しています。

夫も仕事の後に畑に来て作業をしてくれますが、時間が足りず思うように作業ができないことが悩みでした。そこで、もっと効率的な働き方や商品のPRに取り組むことにしました。



○取り組みの内容

ア 家族経営協定の作成

その中で家族経営協定を岩国農林水産事務所の農業普及指導員の方から勧められました。あらためて2人で話し合い、「ムリ・ムラ・ムダのない持続可能な明るい農業」という目標を掲げました。これは 限られた時間で効率よく作業や販売をし、少ない労力で最大限の所得向上を目指すという目標です。



イ 農園シンボルマークの作成

販売額を増やすための努力を生産以外の違う側面から見直してみることをしました。もともと自分で考えたシンボルマークを使ってラベルを作っていましたが、あらためてデザイナーさんからシンボルマークの意義やデザインと商品の関係性について学びました。

このことを機会に、農園のシンボルマークと自信をつけてきたオクラのラベルを考えることにしました。



私たちの農園は一日中太陽が降り注ぐ平らな土地にあります。そこで、お日様をマークにしましたが、田んぼのあぜ道を旧字体の「中」にするアイデアをいただきました。

また、私たちが作る丸オクラが大きくても筋がなく食べやすいという最大の長所をお客様に知ってもらえるようにラベルにいれてみました。



○効果

家族経営協定は、2人の意識を擦り合わせる良い機会になりました。また、認定農業者の更新に合わせて夫妻で共同申請を行いました。

新たな商品ラベルは、五角オクラが主流だった店先で、丸オクラの長

所をアピールできるようになりました。ゆくゆくは、シンボルマークの認知度が上がることで、他の野菜でもお客様に信頼して買ってもらえるような生産者をめざしています。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

農業は自分で仕事の調整ができるので、誰にも気兼ねなく休めます。その分収穫ができなくても、子どもが小さい今だからこそ、それを上回るメリットを感じます。

私たちは、小さな耕運機や管理機しかないので、農地を活用できておらず草の管理もおろそかになりがちです。また、通勤農業のためトイレや休憩スペース也没有ありません。いずれはトラクターの導入や休憩所として借りられる借家等が見つかったらよいなと思っています。

出店者も楽しめるマルシェへ

○女子会名 岩国地域農業女子会

○所在地 岩国市

○取り組みのきっかけ

岩国地域では、ステキ女子の存在や商品を消費者に知ってもらい、農業への理解を深めるためにマルシェを開催しています。



今年度は、やまぐち農林漁業ステキ女子応援団である JA 直売所の「FAM'S キッチンいわくに」で春・秋の時期に開催することとしました。

○取り組みの内容

岩国ステキ女子マルシェ実行委員会で、開催時期や場所を検討しました。開催場所は、ステキ女子の多くが会員である「FAM'S キッチンいわくに」で実施することとしました。この会場のメリットは、①日頃、自分たちの商品を買ってくれる消費者との交流ができる、②軒先での販売は、テントがなくても雨風を避け、日よけもでき、電源が使えること等です。一方、配慮等が必要な点として、①販売手数料がかかるため出店者に出品料の負担をかけないようにしたい、②店内と同じ商品を売る場合は、対面販売だからその工夫が必要、③駐車台数が限られているためお客様を滞留させるイベントは実施方法を考慮することです。

そこで、出店者も消費者と楽しみながら販売促進できるよう、体験やゲームを取り入れた販売に取り組みました。また、今後の活動の参考にするために、消費者アンケートも同時に行いました。

<春のマルシェ>



500円以上お買い上げでガラポン抽選



お買い物袋持参の方へ新タマネギをプレゼント



ハーバリウムを使ったボールペンづくり体験



参加料 100円の釣りでのお菓子をプレゼント

<秋のマルシェ>



マルシェ終了後の反省会



れんこん釣りゲームでレンコンの重みを実感



竹に触れてもらう竹馬体験



お米を使ったパスタ等の試食

○効 果

来場者アンケートや、マルシェ終了後の反省会等で皆さんの感想を聞きました。

<春マルシェのアンケート結果>

・接客が明るくて今日みたいな雨でも元気をもらいました。ガラポンが当たって楽しい。お菓子楽しみです。女の子が楽しくなるような企画だと思います。ボールペンづくりを子どもが喜んでいました。等

<秋マルシェのアンケートの結果>

・レンコンのくじ引き、楽しかったです。玄米パスタを試食させていただき、モチモチして美味しかったです。女子の接客は良いです。頑張ってください。等

<出店者の感想>

- ・雨にも関わらずたくさんのお客さんが来店され大盛況でした。出店者やお手伝いの皆様ともお話ができて楽しかったです。次のマルシェも楽しみにしています！
- ・気が付いたら、もう終わりの時間でした。あまりお話ができなかった方も多かったです、大変お世話になりました。
- ・初めてのマルシェ体験だったので、とても楽しかったです。
- ・初めての参加に緊張気みでしたが、皆さんに温かく迎えていただきうれしかったです。マルシェの楽しさを感じられて明日からの野菜づくりにがんばる元気をもらいました。
- ・農業女子のマルシェは販売中も楽しいですが、皆さんとお話することも楽しみなマルシェです。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

以上のアンケート結果や出店者の声にあるように、ただ販売するだけでなく、体験やゲームを取り入れることで、お客さんも出店者も楽しめるマルシェになりました。出店者や消費者の声を聞きながら、皆さんができる範囲で自分の商品を工夫して販売促進できるように努めていきたいです。

先進農家の取組をヒントに環境改善に取り組み始めました*

- 屋号・法人名等 大内バラ園
- 氏名 O.Y ※氏名イニシャル
- 所在地 周防大島町
- 生産品目 施設バラ



○取組みのきっかけ

長年両親が経営するバラ農園の作業を手伝う中で、作業時の身体の負担軽減や作業効率の向上に取り組みたいと思うようになり、作業環境の改善に取り組むことになりました。

○取組みの内容

●改善したいことのリストアップと先進農家の訪問

まず、施設内の環境で改善したいことを書き出していったところ、「ハウス内外の通路を平坦にすること」「バラの蕾かき作業を楽にするために通路に作業台を設置すること」等があがりました。

改善方法を考える中で、他の施設花き農家のハウスではどのように施設内を整備しているのか疑問に思い農林水産事務所に相談し、知見を得るために近隣の施設花き農家のほ場を訪問させてもらうことになりました。

訪問先のほ場や作業棟では、物品一つ一つがきちんとラベリングされて保管場所も明確に決めるなど整えられており、新たにものを導入するためには、まず施設内を掃除するところから取り組まなくてはならないと気づきました。



作業体験の様子

また、様々な機械を導入されていて、その中の一つとして充電式のハンマドリルを試しに使わせてもらいました。普段は手作業で行っていた支柱の打ち込みが機械化できることによってずっと楽に負担なく作業することを体感し、導入したいと思いました！

○効果

さっそく環境整備として、施設内の掃除から取り組み始めたところ、まだ途中ですが、作業性が良くなってきています。



環境整備の様子（左：掃除前 右：掃除後）

○感想や今後の経営改善等取組みへの意向

自分の農園以外を見させてもらう機会があまりなかったのも、こんなにも施設内が整然と管理されている農園があるのかと驚き、勉強になりました。あらためて環境を整備して経営改善に取り組まなければならないなど、身が引き締まる思いです。

また、従前どおりに行っている作業を機械化するアイデアは、自分では思い浮かばなかったのも、先行した取組みを参考にすることも大切だと感じました。ハンマドリルはぜひこれから実際に購入したいと思っています。

「やまぐち農林漁業ステキ女子応援団」とのコラボ活動を拡大しています！

○屋号・法人名等

○氏名 柳井・大島地域農業女子会

○所在地 大島郡周防大島町

○生産品目

○就農年



○取り組みのきっかけ

柳井・大島地域農業女子会(以下、地域女子会)では、令和5年度より「やまぐち農林漁業ステキ女子応援団(以下、応援団)」であるリゾートホテル「マリッサリゾート サザンセト周防大島(以下、マリッサリゾート)」とのコラボ活動を開始しており、地域女子会メンバーの商品を販売する「農業女子コーナー」の設置やレストランメニューへの食材提供等の活動を展開してきました。

しかし、地域女子会メンバーの商品のみでは、季節により商品の種類や数に偏りがあり年間のコーナー維持が難しいことや、「応援団として県域のステキ女子も応援したい」というマリッサリゾートの意向をふまえ、取組の範囲を県域へ拡大することとしました。

○取り組みの内容

県域への取組拡大にあたり、マリッサリゾートの担当者や県事務局とも協議を重ね、県域で開催されるステキ女子ミーティングで取組を紹介し、参加を呼び掛けることとなりました。

その後、令和6年10月2日に開催された第1回ステキ女子ミーティングでは、これまでの地域女子会とのコラボ活動内容を紹介するとともに今後の展望について説明し、オンラインでレストランシェフとの意見交換やミニ商談会を実施しました。

また、後日、欠席者も含めやまぐち農林漁業ステキ女子に対しコラボ活動への参加希望を募りました。



紹介の様子

○効果

昨年度からコラボ活動に参加している地域女子会メンバーについては、今年度も引き続き商品の販売や食材としてのレストランへの農産物提供を行っている。また、今回の取組により、県域からは5名の参加希望があがり、農業女子コーナーの充実に向けた取組が進んでいます。今後は、マリッサリゾートが企画する新たなイベントへの出店呼び掛けなどが予定されており、活動の幅が広がります。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

コラボ活動が地域女子会メンバーの経営発展に役立つよう、今後はより効果的な情報共有や情報発信についてのさらなる検討や取組推進が必要と考えています。

小さな改善の積み重ねで、働きやすい作業場になった！

～作業所と直売コーナーを女性が働きやすい職場に！～

- 屋号・法人名等 かいたファーム
- 氏名 海田春水
- 所在地 周南市
- 生産品目 梨、ぶどう
- 就農年 2016年



○取り組みのきっかけ

経営の中で、収穫後の調製場所や繁忙期の作業効率が悪いなどの問題でストレスを感じていた。

令和4年にやまぐち農林漁業ステキ女子に登録したことで、作業所等の効率的な改善について専門家からアドバイスをいただく機会を得ることができ、夫と共に、働きやすく、ストレスの少ない作業場づくりに取り組んだ。

○主な取り組みの内容

(1) 調製場所の効率化

① 事務コーナーの移動

パソコン、電話、プリンター、顧客情報等の事務機が調製場所の一番奥に設置されており、接客場所から遠く、行き来するのが煩雑であったため、接客場所近くに移動させた。

【ビフォー】

【アフター】

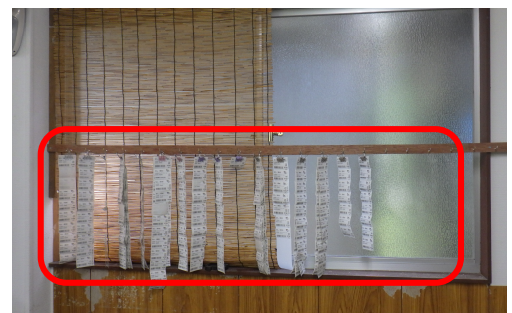


② シールの置き場所整理

梨やぶどうに貼るシールの種類が多く、シールを探して貼る手間が煩雑であった。窓枠に板を打ち、色別クリップに挟んだシールをぶら下げ、見やすく探しやすくした。

【ビフォー】

【アフター】



③ 収納棚の設置

カラーボックスを活用し、秤や道具を収納し、しまいやすく出しやすくした。

【ビフォー】

【アフター】



④ 調製台の工夫

調整台の脚に引っかかりコンテナが出しにくかったので、サイズを合わせたコンパネを設置し、取っ手を持って滑らせて使えるようにした。

【ビフォー】

【アフター】



○効果

- ・事務コーナーを販売コーナー近くに移動したことで、接客や作業、電話対応などの動線が短くなり非常に効率的に動けるようになった。
- ・秤や道具・シールを整理できたため、出しやすく使いやすくなり、見た目もきれいで、探す時間も短くなった。
- ・調製台の下のごみを入れるコンテナをスムーズに引き出すことができようになり、作業負荷が格段に軽減された。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・事務机を奥から前に出したのが一番効果が大きかった。とても動きやすいし電話もとりやすいし、お客様の対応もしやすくなった。今まで奥でよくやっていたなと思うし、動きやすくなるとそれが当たり前になる。
- ・取り組んだ改善でも効果が今一つのものもある。もう一つ改善の余地があると感じている。
- ・今まで何も気にならなかったが、改善すれば効率的になると実感している。もう一歩進めていければと思う。

夫婦で取り組む働きやすい職場づくり

～作業所と直売コーナーを女性が働きやすい職場に！～

- 屋号・法人名等 きときと果樹園
- 氏名 田中和歌子
- 所在地 周南市
- 生産品目 ぶどう
- 就農年 2017年



○取り組みのきっかけ

ぶどうの経営の中で、作業場などの動線が悪く、ストレスを感じていた。
令和4年にやまぐち農林漁業ステキ女子に登録したことで、作業場等の改善について専門家からのアドバイスをいただける機会を得ることができ、夫と共に働きやすい環境づくりに取り組んだ。

○主な取り組みの内容

①書類・文具・道具等の置き場の整理整頓

文具や書類を接客カウンターの下に段ボール箱等で置いていたが、出しやすく使いやすくするため、ファイルケースを並べて表示し、整理して収納した。

【ビフォー】

【アフター】



②空き段ボール箱用の棚設置

お客様の持ち帰り用段ボール箱が多く、場所を取っていたので、上部に棚を製作した。

【ビフォー】

【アフター】



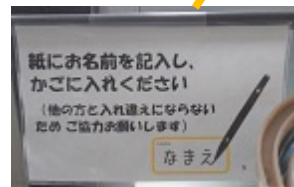
③もぎ取りかごの置き場を整理し、使い方を表示。お客様が自分でもぎ取りに持っていける動線を整理した。また、トイレ表示もガラス戸に貼り、お客様が自分で行けるようにした。

【ビフォー】

【アフター】



トイレの場所表示



もぎ取りかご使い方表示



かごと鋏使い方

④試食後のコーナー整理

試食後の食器返却場所がなかったので、お客様がそのままにした食器等を片付ける手間が多かった。返却場所とゴミ箱を表示し、お客様が自分で返却できるようにした。

【ビフォー】

【アフター】



○効果

- ・ 文具や道具を整理できたため、出しやすく、使いやすくなり、ストレスが減った。
- ・ 空き段ボール箱の置き場所を整備できて、作業場に空間ができ、すっきり便利になった。
- ・ もぎ取りかごの置場変更や使い方の表示、トイレの場所や食器返却場所の表示などお客様への説明時間が短縮でき、作業効率が上がった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・ 全体的に、とても効率が良くなった。
- ・ 表示することで、お客様が自分で動いてくれるようになり、楽になった。
- ・ 今まで何も気にならなかったが、改善すれば効率的になると実感している。改善は、やれば楽になる。やはり改善はやってみるものだと思う。

情報の「可視化」、整理収納の習慣化により働きやすい職場環境に

- 屋号・法人名等 株式会社あぐりてらす阿知須
- 氏名 長尾智美(代表取締役社長)
- 所在地 山口市
- 生産品目 水稲、麦、サトイモ、ダイコン、ニンニク
加工品(寒漬、かき餅、ピクルス)
- 就農年 平成24年



○取り組みのきっかけ

経営規模を拡大し、従業員の人数や、農機具、農作業道具が増える中、働きやすい環境づくりが課題であった。

令和4年度から「女性が働きやすい農業経営体づくりセミナー」を受講し、経営改善の事例や、講師のアドバイスにより、整理収納やホワイトボードの設置による作業スケジュールの見える化等、経営改善に取り組んできた。

今年度も引き続き、経営改善に取り組むこととし、勤怠管理や情報共有について重点的に取り組んだ。

○取り組みの内容

(1) 社用スマートフォンとタブレットの導入

従業員が増え、スケジュール管理や情報の「可視化」を進めるために、社用のスマートフォンとタブレットを導入した。

(2) 勤怠管理アプリの導入

過去のセミナーで学んだことを参考に、社用スマートフォンとタブレットの導入と合わせて、勤怠管理アプリの導入を検討し、自社の目的や使い方に合ったアプリを選定し、「LINE WORKS」を導入した。

「LINE WORKS」を活用して、従業員の勤怠管理、スケジュールの共有、毎日の作業日誌の記録、連絡連絡の周知等を開始した。

(3) クレジットカード・電子マネーも使えるお店の決済サービスの導入

タブレット(iPad)の導入と合わせて、クレジットカード・電子マネーも使えるお店の決済サービス「Air ペイ」を導入した。

(4) 整理収納

従業員全員で、農業倉庫、農産加工施設の整理収納を実施した。

① 不要なモノの除去

② モノの置き場の決定

- ・モノの使用頻度や時期、使い方等を考慮してモノの置き場や動線を決め、テープを打ち付けてラインを引き、エリア分けした。
- ・出し入れが頻繁な書類は立てて収納、棚の下には土埃の影響のない備品を収納した。
- ・靴箱には名前を付ける。汚れたらサッと洗い流せる「シリコンマット」を敷いた。

- ・引出棚には、収納するものを決めて、マスキングテープでよいので表記することとした。
- ・見えるところに整理整頓された状態の写真を貼り、その状態に戻すこととした。

③倉庫マップの作成、掲示

④掃除のルール化

- ・毎月末、業務の一環として、「掃除の日」を設置。



○効果

(1)社用スマートフォンとタブレットの導入

- ・デジタル化が進み、業務の効率化に繋がった。

(2)勤怠管理アプリの導入

・これまで、今日、誰が何をしているかが見えなかったが、誰もがいつでも確認できるようになった。

・これまで、休暇の予定は、事務所のカレンダーに手書きで記入していたので、そこに行かなければ、予定の記入、確認、修正ができなかったが、効率的に管理できるようになった。また、管理者としては、勤怠実績を自動集計でき、管理を効率化できた。

・トーク機能でタスクを送ることができ、事務連絡を周知できるようになった。また、誰が既読、未読であるかを確認でき、未読の従業員に個別に連絡することで、従業員全員への連絡の周知や確認ができるようになった。

(3)クレジットカード・電子マネーも使えるお店の決済サービスの導入

- ・「Air ペイ」を導入することで、イベント等での電子決済が可能となり、客層が広がった。

(4)整理収納

・スペースを枠やラインで区切り、収納場所や動線を確保することで、モノを探す時間やストレスが軽減された。

・整理収納を従業員全員で実施したことで、意識やルールを共有できた。また、キレイな環境で業務のモチベーションが上がった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

引き続き、どんな環境だと働きやすいか、従業員の声に耳を傾け、従業員が働き続けたいと思える環境を整え、雇用を確保していきたい。

これからも、より働きやすい職場環境にしていくため、自分自身と会社の改善を行っていきたい。

動画マニュアル作成や「やまぐち“とも×いく”応援企業」への登録 による働きやすい雇用環境整備

- 屋号・法人名等 株式会社藤村農園
- 氏名 大木 蛍(農場長)、石田 聡来(社員)
- 所在地 山口市
- 生産品目 露地野菜(キャベツ、ブロッコリー、
サツマイモ、タマネギ等 12品目)
野菜苗(タマネギ、サツマイモ)
- 就農年 2019年、2023年



○取り組みのきっかけ

従業員の人数が多く、新規採用者も増える中、日々の作業手順や必要なノウハウを共有することの難しさを感じていた。農作業は一連の動きを見て覚えるような内容が多く、ポイントやコツが伝わりにくく、特定の人にしかできない作業が多い。

そのため、紙面でのマニュアルの作成も検討したが、作成の難易度が高く、時間がかかることから、効率よく作成し、感覚的なところも分かりやすく正確に伝えるためのツールとして、身近なスマホを使って動画マニュアルを作成することとした。

また、社員が働きやすい環境を整えるため、「やまぐち“とも×いく”応援企業」の登録に向け、行動計画を作成することとした。

○取り組みの内容

(1) 動画マニュアルの作成

農山漁村女性活躍支援アドバイザーの助言を受けながら、農作業の動画マニュアル作成に取り組んだ。

- ① 動画の撮影
- ② 動画の編集
- ③ 動画マニュアルの管理、従業員同士での共有



(2) 「やまぐち“とも×いく”応援企業」への登録

社員が能力を発揮しつつ、仕事と生活の調和を図ることができる働きやすい雇用環境を整備するため、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、「やまぐち“とも×いく”応援企業」に登録した。また、行動計画は全社員に周知し、自社ホームページにも掲載した。

- ・目標1…将来的に「育児休業取得率 100%」及び「1 カ月以上の育休取得」を目指し、育児休業制度等の概要についてのパンフレットを作成、周知。
- ・目標2…法を上回る「子の看護休暇」制度に改定し、仕事と生活の調和を図る取組を強化。令和6年6月までの育児・介護休暇等に関する規則では、当該子1人の場合は1年間につき5日、2人の場合は10日を限度として子の看護休暇を取得できるとしているが、令和6

年7月からは、当該子1人の場合は1年間につき7日、2人の場合は14日を限度として子の看護休暇を取得できるように改定、周知。

- ・目標3…雇用環境整備の一環として、法に基づく育児休業給付、産前産後休暇、育児のための所定外労働時間の制限、育児短時間勤務など諸制度について周知徹底。



○効果

動画の撮影、編集をする工程で、改めて伝えたいノウハウを確認できた。

言葉で伝えるよりも効率的にノウハウを伝えることができるしくみができた。

ライフスタイルが変化しても、仕事と家庭の両立ができ、安心して働ける環境を整えていくことへの意識が高まった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

スマホとアプリを使って、自社オリジナルの動画マニュアルを作成できるようになったので、年間を通して、ポイントとなる作業の動画マニュアルを作成し、知識や技術の共有やスキルアップに繋げたい。

引き続き、従業員が働きやすい環境づくりに取り組んでいきたい。

Instagram で直販の情報発信

- 屋号・法人名等 とよたファーム
- 氏名 豊田康恵
- 所在地 美祢市
- 生産品目 梨
- 就農年 2013年
- 取り組みのきっかけ



- ・2022年経営面積 1.3ha(二十世紀梨 98%、その他品種2%)

主力品種である二十世紀梨の栽培は手がかり、雇用者の高齢化が進む中規模の維持が難しくなってきた。労力の分散を図るため二十世紀梨を減産し、晩成品種の梨の生産量を増やしていくことにした。共同販売の二十世紀梨と違い、晩成梨は自分たちで販路開拓をしていくことが必要になる。そこで、ネット販売や道の駅等での直販を試行し、その顧客を作るため Instagram で情報発信を行った。取組については、やまぐち6次産業化・農商工連携人材育成研修のフォローアップ、県のステキ女子研修会での学びを生かして取り組んだ。

○取り組みの内容

(1) 通販開始に合わせて Instagram の毎日更新

- ・まったく認知度のない「甘太梨」を推し商品として通販予約販売
- ・通販サイト予約販売開始までの一か月前から毎日投稿
- ・甘太梨の特長／名前の由来／秋芳町の紹介／梨畑の様子／ポケットマルシェの紹介…など
- ・10日前からカウントダウン／その後も投稿は継続
- ・2024年からは顔出しの動画でメッセージを伝えるスタイルに移行

【Canva で作成した Instagram の画面】



【大変だったこと・改善策】

① 画像編集

- ・特に農繁期は忙しく、画像編集をするのが大変になった。そこで、投稿を「フィード投稿」、「リール動画」、「ストーリーズ」で使い分け、更新を途切れさせないように工夫した。

② 素材がない

- ・甘太梨の写真が一枚しかない
- 通販はもう少し先と思っていたので、素材が少なく甘太梨の写真は一枚しかなかった。

写真が足りないところは自分でイラストを描いたり、育つ過程の写真を投稿したりした。

- ・映える写真が撮れない

私は写真のプロじゃなくて梨のプロ！私にしか見えない景色を投稿するよう心がけた。

- ・編集は Canva、写真撮影は Foodie が便利
- 編集でちょっと文字を入れるだけでグッと伝わる。

【手描きの絵】



【写真に文字を入れる】



③ 写真映えよりコミュニケーションを大切に

・Instagramを通じて何を達成したいか／誰に何を伝えたいかをよく考える。

→梨づくりについて知って・とよたファームのファンになって・梨を買ってほしい！

・主な客層は40代～60代の女性。具体的にお友達の顔を思い浮かべ、その人に伝わるように投稿を考えた。→知っている誰かに伝えようと思うと、内容や使う言葉が自然に「伝わる」ものになる。

・こまめに更新し、フォロワーとコミュニケーションをすることで、Instagramにアクティブな(良好な)アカウントと認識され拡散力がついてくる。

→2023年3月リーチ 158 アカウント、2024年4月リーチ 317 アカウント、2025年2月 10,843 アカウント

(2) クリエイターアカウントへ変更

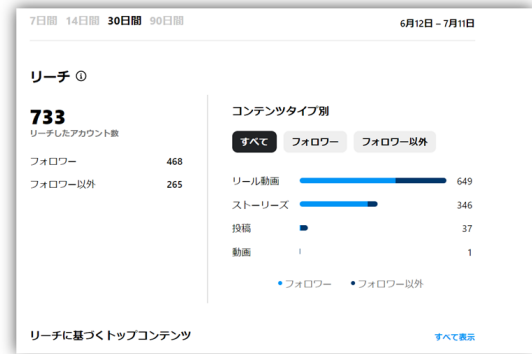
クリエイターアカウントへ変更すると投稿についての詳細なデータが見られるようになる。

・閲覧アカウントの総数、フォロワーの閲覧数、フォロワー以外にどれくらい拡散しているか、フォロワーの性別、年齢、居住地、フォロワーがよく見てくれる時間は何時か…など。

【フォロワー数(日、時間ごと)】



【投稿の種類によるリーチ数】



○効果

・フォロワー数 2023年3月 365人→2024年7月 1,000人→2025年3月 1,744人と増加中。

・2023年甘太梨 23箱、2024年晩成梨4品種合計 150箱をネットで予約販売(2024年は完売)

2023年は顧客の半数が知り合いでしたが、2年目は昨年の購入者にリピート購入を頂いた。

2024年はふるさと納税やクラウドファンディングにも挑戦することで販売のフィールドを広げ、さらに認知を上げることができた。

・普段からお客様からのDM、問い合わせが増加

→お客様が何を求めているかがわかってきた。

・「とよたファームの梨を買いたい」というお客が増加

→支えてくれるファンができた／販売するフィールドが増えた。

・お客様の顔が見えるようになって、仕事の励みに

→大変な作業こそインスタのネタになる！というやりがい生まれる。

・飲食等の業者さんからの問い合わせが増加

→次のチャレンジへのスピードが速くなった。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

Instagramの毎日更新は慣れるまでがとにかく大変だった。投稿のネタを探すのにも苦労したが、今では大きな苦労なく毎日投稿を続けることができるようになった。Instagramを通じてお客様との信頼関係が生まれたことが、普段の作業のモチベーションにもなっている。まずは1箱販売しようと始めた通販。通販にかかわる箱やパンフレットなどは常にブラッシュアップし、今よりもっと喜んでもらえるように工夫を続けている。生産量の拡大に伴い発送件数も増加していく予定。お客様に喜んでいただける生産・発送を心がけていきたい。

【甘太梨のセット

(商品の紹介チラシ、手ぬぐい、美祢市のパンフレット入り)】



宇部・美祢地域ステキ女子マルシェを開催

○氏名 宇部・美祢地域ステキ女子マルシェ実行委員会

○所在地 宇部市、美祢市、山陽小野田市

○取り組みのきっかけ

令和5年度から、子育て世代をターゲットに、自分たちの活動や商品を知ってもらい、新たな顧客を確保するために、マルシェを開催することにしました。

○取り組みの内容

(1) 進め方の体制づくり

- ・美祢農林水産事務所からマルシェ実行委員の募集があり、実行委員に応募した、メンバー3名(R6年度4名)で進めることとしました。
- ・先進地域の岩国農業女子のマルシェの取組を視察し、運営方法や取組内容について学びました。
- ・話し合いは、昼間の1時間30分とし、場所は、メンバーの所在地の中間地点で、出荷場近くの研修室で行い、参加できない場合は、LINE電話も活用して負担が少ないように工夫しました。(年4回程度)
- ・なお、細かいことは、実行委員のグループLINEで検討し、出店者全体のLINEグループへ共有する形としました。

【話し合いの様子】



(2) 開催場所の選定

- ・候補地を見て回り、オープンしたばかりで話題性があり、子どもたちが多く集まる場であること、駐車場が近くにあること、芝生の公園でゆったりできる場所であること等から、山口宇部空港に隣接する「山口宇部空港ふれあい公園」を会場に決定しました。

【候補地巡りの様子】



(3) 商品を知ってもらい、来場者、出店者も楽しめる内容に

- ・賞品が当たる野菜クイズや牛乳クイズを実施しました(R5年度)(関係機関や出店者の子どもたちが協力)。
- ・各出店者の商品が当たるクジ引き(500円以上の2店舗以上で1回)を実施しました(R6年度)。
- ・未就学児、小学生以上を分けて、軽トラから、(出店者が製造した)もちまきを検討しました(雨で中止)(R6年度)。
- ・来場者が安心して買い物ができるよう、また、出店者も来場者とゆっくり話ができるよう、託児スペースをつくり、子守りをシルバー人材センターに依頼しました。

【託児コーナー】



(4)告知 PR、情報発信

- ・インスタグラムを活用し、宇部・美祢地域ステキ女子マルシェの共通アカウントを作成し、実行委員が、マルシェの告知や出店者、商品の紹介等を情報発信しました。
- ・実行委員でチラシを作成し、各出店者のつながりのある店舗のほか、市や農林水産事務所等で掲載してもらいました。
- ・各出店者が SNS でマルシェの告知を行いました。
- ・実行委員が地域メディア各社を周り広報。ラジオにも生出演し、マルシェの紹介をしました。

(5)次につながる取組

- ・農林水産事務所の協力を得て、商品や販売先を記載(あれば SNS 等 QR コードも記載)した出店者の紹介パネルを作成し、展示しました。

【紹介パネル】



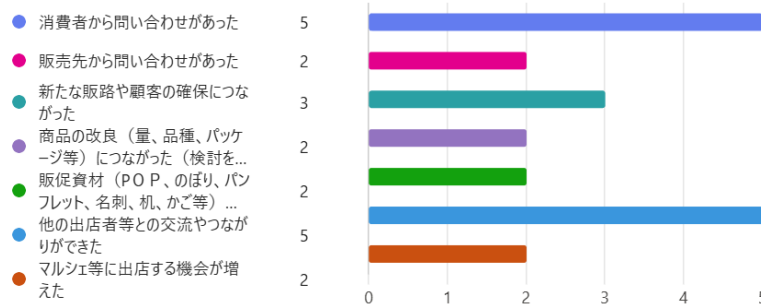
【チラシ】



○効果

- ・消費者やから問い合わせがあったり、新たな顧客の確保につながりました。

【出店者アンケート結果 (R6)】



- ・開催場所であった山口宇部空港を管理する山口宇部空港管理ビル株式会社から、雨天時の軒下利用やマルシェへの出店、空港での常時販売等の連携の提案がありました。
- ・出店者も来場者も、家族で参加して、交流して楽しめるマルシェとなりました。
- ・新たなメンバーの参加、仲間同士の交流や世代を越えた交流にもつながりました。

○感想や今後の取り組みへの意向

- ・2年目の R6年度は、悪天候での開催であったため、次年度は、雨の場合の対策も考え、実施していきたいと思います。
- ・自分たちの活動や商品を知ってもらい、新たな顧客を確保できるような場として継続していきたいです。
- ・来場者及び出店者も楽しくなるようなマルシェを検討し実施していきたいと思います。

「長府企業フェスタ」での活動 PR !

○屋号・法人名等

○氏名 下関地域農林漁業女子会

○所在地 下関市



○取り組みのきっかけ

下関地域では、女子会が主催してマルシェを実施したことはまだありませんが、今年度、下関地域「地産地消」推進協議会から下関地域農林漁業女子へ「長府企業フェスタ」への出展案内があり、興味のあるメンバー3名が出展しました。

○取り組みの内容

イベントは10/12~10/13の2日間にわたって開催され、3名とも両日出展しました。初めて出展したイベントであったため手探りの状態でしたが、各々がブースで生産物の販売や活動のPRを行いました。

また、下関農林事務所農業部でチラシを作成・配布することで、今回出展した3名及び下関地域農林漁業女子の周知を図りました。

○効果

好天により来場者も多かったため、効果的な販促となりました。企業イベントであることやワークショップの実施によって、普段と違う客層にもPRを行うことができました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

実施後の出展者への聞き取りにおいて、イベント出店に係る効果的な陳列方法やPRチラシ・POPの作成等についてより詳しく学びたいという意向が見られました。来年度の活動の参考としていきたいです。

出展ステキ女子紹介

永見 優子 【山口県西部森林組合】
 普段はバリバリの林業女子！
 緑豊かな山口県で育った木を使った
 製品を製作販売しています。

野村 みゆき 【野村農園】
 下関市蓮生野でユリを中心に様々な
 花とお米を生産しています。
 花を育てる楽しさや感動をぜひ味
 わってください！

秋枝 実里 【角島ジェラート ポポロ】
 牧場直送のジャージー牛乳をベース
 に、山口の食材をふだんに使用し
 ています！
 ここにしかない味わいをお楽しみく
 ださい。

ステキ女子って…?
 農林水産業の経営者・経営参画者として自身の
 “ステキ・スタイル”を確立し、その魅力を
 発信している女性のことです。
 「きれい」に「輝き」、「かしこく」、「かせく」!!

作成したチラシ



出展ブースの様子

農事組合法人における6次産業化推進

- 屋号・法人名等 農事組合法人おのじ営農組合女性部
- 氏名 K.M ※氏名イニシャル
- 所在地 長門市
- 生産品目 露地野菜
- 就農年 2010年



○取り組みのきっかけ

(農)おのじ営農組合(平成27年3月設立)は、水稲・麦・黒豆・すいか・露地野菜を生産しています。平成30年に法人の代表から「女性中心で野菜栽培をしてみないか」との呼びかけがあり、雇用者の冬場の仕事づくりも考慮して、野菜(たまねぎ・キャベツ等)栽培の試行を開始しました。

その後、令和4年度に女性部が正式な部会として発足し、女性部が中心となり、露地野菜を中心に30品目を栽培していますが、どうしても規格外や販売余剰が発生するため、生産物を有効に活用し、農業所得の向上を目指すため、製造・加工(2次産業)やサービス業・販売(3次産業)にも取り組む6次産業化推進に向けて検討を開始しました。

○取り組みの内容と効果等

・加工品開発の検討

現在の販売先は地元直売所が中心となっており、出荷量が多くなると売れ残りが発生することがあります。そこで、新たに「道の駅センザキッチン」等で販売を行うため、日持ちする加工品を開発することとしました。加工品の開発にあたっては、品目数を多くすることが重要と考え、新たにさつまいもや黒豆等の加工品の試作を開始しました。

・新たな販路の検討

女性部の検討会で、加工品の取組以外にも農産物の販路拡大が必要であるとの意見が出されました。

そこで、「新たな販路」として、市内の飲食店(食彩店)への食材提供を試みることに決定され、今年度、ながと農業女子会が市内食彩店「さわやどり。」で開催された際に菜花(なばな)を提供しました。



法人生産の菜花(なばな)



農業女子会ランチ

この取組をきっかけに、引き続き法人女性部と飲食店との連携について検討を継続することとしています。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・女性の視点からの活動により、売上の増加や経営の多角化にプラスの効果を及ぼすような魅力ある加工品の開発に取り組むと共に、試食会や試験販売の実施などに取り組んでいく予定です。
- ・今後も引き続き飲食店との連携検討を継続し、生産者として作物の魅力やおすすめの食べ方紹介等メニュー開発にも携わり、農業法人や地域のPRにつなげたいと思います。

「魅せるビジネスフォト」で、情報発信を！

- 屋号・法人名等
- 氏名 阿武菽地域ステキ女子会
- 所在地 菽市・阿武町
- 生産品目
- 就農年



○取り組みのきっかけ

阿武菽地域では、地域の農家が連携して定期的開催している「はぎマルシェ」や、阿武菽地域ステキ女子会メンバーで企画する「ステキ女子マルシェ」など、農業者と生産者が直接触れ合う場面が多数あります。女子会メンバーには、そのような場面で消費者へ直接商品を紹介する機会も多いため、効果的なPR方法を学びたいとの意向を持っています。

こうした中、同時期に、柳井・大島地域農業女子会で、スマートフォンを使った写真の撮影方法とその活用について学ぶ研修会が実施されたことを知り、“フォト・オフィス・マザーリーフ”代表の渡辺美沙さんを講師に招き、同様の研修を開催することにしました。

○取り組みの内容

(1) 講義

一瞬で顧客の心をつかめるビジネスフォトを撮影するためのポイントについてお話しいただきました。

参加者たちは、他とは違う差別化されたPR写真の撮影を目指し、「誰に、どんな気持ちになってもらうために商品を作っているのか？」を改めて考え、写真でどう伝えたいのかを整理しました。また、人物を入れた構図では目線入りの写真のほうが消費者に興味を持ってもらいやすいことや、料理の写真は縦の構図で撮影することで「しずる感」が出せることなど、新たな学びが多くありました。



【講義の様子】

(2) 室内実践撮影

各自が持参した商品を被写体として、実際に写真撮影を行い、アドバイスをいただきました。撮影前に「誰に何を伝えるための写真を撮るか」について講師と話した上で撮影を行ったことで、写真で表現したい雰囲気を考え、それに近づけるための撮影テクニックを学ぶことができました。



【撮影指導の様子】

○効 果

参加者それぞれが、自身の商品をPRする際に活用できる写真を撮影することができました。

訴求したい相手によって仕上がりを変えると効果があることや、目指す雰囲気の写真を撮るために必要なテクニック(構図の取り方、光の当て方など)を知ることができました。

撮影した写真の一部は、令和6年度ステキ女子マルシェのチラシに掲載しました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

何気ない日常を撮影する時に、少しカメラワークを意識することで、「伝わる写真」に仕上がることが分かりました。

SNSで発信する機会も多いので、掲載用写真を撮る時に実践してみたいと思います。

マルシェ出店者

岡崎農園 手作りアローチ

光井農園 千石台大根
 皮までがクタクタの柔らかい肉質の千石台大根。皮も美味しく食べられます。自然の恵みを感じ、大切に育てています。ぜひお試しください。

松田農園 にんじん、じゃがいも

榎谷農園 イチゴ、サツマイモ、栗芋、イチゴジャム、いちじくジャム、リーフレタス

ミノルファーム ジャがいも、カボチャ、赤大根、にんじん、パプリカ、ケール

鈴尾農園 白飯、ゆず、大根、ネギ、レタス、サツマイモ、サニーレタス、アロケ、コー、カリフラワー

阿武荻地域ステキ女子

阿武荻地域では、若手女性農林漁業者を対象に、交流や悩み等の思いを共有し、ともに学ぶ場として「ステキ女子会」を開催しています。

イベント・活動についてのお問合せ **新メンバー募集中!**

阿武荻地域ステキ女子会
 山口県萩農林水産事務所農業部
 TEL 0838-22-0158 (担当:大澤)

天候等により、出品物が変更になる場合があります

ついに実現！「オリジナル豚汁」提供 in ステキ女子マルシェ

○屋号・法人名等

○氏名 阿武萩地域ステキ女子会

○所在地 萩市・阿武町

○生産品目

○就農年



○取り組みのきっかけ

阿武萩地域ステキ女子会では、令和2年度以降、年に1回のペースでメンバー同士の連携活動の一つとして「ステキ女子マルシェ」を実施しています。

マルシェでの農産物の販売を通じて、消費者との交流や新規顧客の開拓に取り組んできましたが、メンバーが栽培する農畜産物を活用した料理(豚汁)をマルシェで試食提供し、これまで以上に効果的にPR活動を行いたいという意見が多数上がっていました。

そこで、令和6年度は、従来の農産物の販売活動に加えて、消費者への豚汁試食提供を实践することとしました。

○取り組みの内容

- ・「ステキ女子マルシェ検討会」を4度開催し、役割分担や予算配分、当日のタイムスケジュール等について打ち合わせを行いました。
- ・マルシェでの購入金額が一定以上になるお客様には、豚汁1杯を無料プレゼントする企画を用意し、集客力の向上に向けた取り組みを行いました。
- ・令和4年度以降、当女子会の取組みを応援してくださっている Chibicco Design 稲田ゆきこ氏の協力を得てPR用のチラシを作成し、関係各所での配布を行いました。また、ケーブルテレビや、ファーマーズマーケットが運営する公式LINEを通じて、イベントの実施について広く告知しました。

○効果

- ・事前協議を入念に行っていたことから、当日は段取りよく準備が進み、予定どおり豚汁を準備することができました。
- ・豚汁100食分を提供し、消費者とのふれあいを果たすとともに、「阿武萩地域ステキ女子会」の活動をPRすることができました。
- ・マルシェ開始当初からの念願を果たすことができ、大きな達成感を得ることができました。また、参加者の絆も深まり、女子会メンバーのネットワークが強固なものになりました。

○感想や今後の経営改善等取り組みへの意向

- ・来年度も引き続きマルシェを開催し、阿武萩地域ステキ女子会メンバーの活動PRと、消費者とのふれあいを実践する予定です。過去5回の実績と反省点を踏まえて、より実りの多い取組にしたいと思います。



【マルシェチラシ】